

さいたま市内の小学校において出前授業等を実施 ～日本を支える海運を様々な角度から紹介～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、授業への協力やオンラインコンテンツの制作などに取り組んでおります。

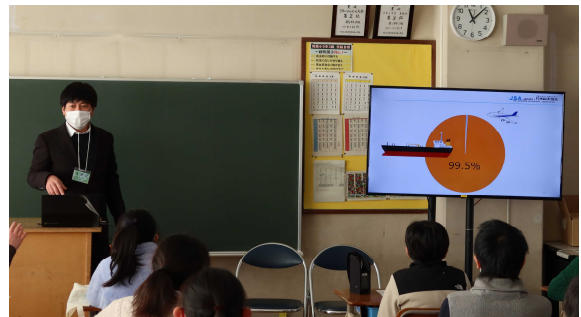
今般、1 月 25 日（水）および 1 月 31 日（火）に、埼玉大学教育学部附属小学校 5 年生約 35 名を対象に海運に関する出前授業等を実施いたしましたのでその模様をお知らせします。

なお、同授業は文部科学省委嘱の研究授業として、「工業生産を支える海上輸送」をテーマに行われました。

<1 月 25 日（水）計 90 分>

授業は、海運の重要性や船の種類などを紹介する従来の内容に加え、学校からの要望もあり、海上航行のルール、海賊対処や環境への取り組み等、より詳しい内容も加えました。

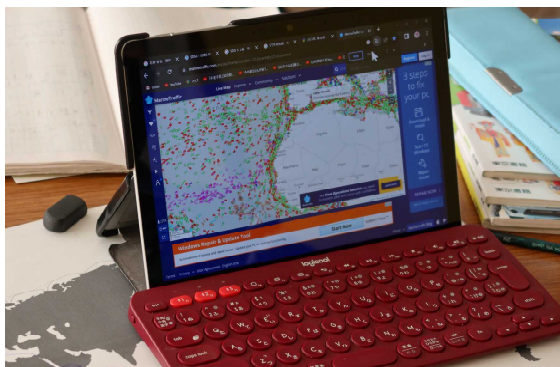
まずは児童が楽しく学べるようクイズも交えながら、物流全体の中の海運の役割、日本の貿易量の海上輸送の割合等を紹介し、海外依存度の高い日本では海運が無くなる/止まると日々の生活や産業活動が成り立たなくなることを伝えました。また、実際に陸・空・海運に携わる企業名についても答えてもらいました。



次に、自動車産業を例に挙げ、約 3 万点ある自動車の部品や原材料の多くは海外から船で輸入しており、運ぶものに応じて様々な船の種類（専用化）があることを紹介しました。また、自動車の年間生産台数の約半数は輸出され、その大半を自動車船で運んでいること、なぜ飛行機ではなく船で運ぶのか等、船のメリットや大量輸送するための船の工夫を説明しました。更に、世界地図を配布しアメリカ東海岸やヨーロッパにどのような航路で自

動車が輸出されているか児童に考えてもらいました。

後半では、世界地図に書き込んだ航路上にはパナマ・スエズ両運河があること、その建造年や年間通航隻数等概要および通航メリット（航路日数の短縮や燃料費等の削減）等、運河が海上輸送において重要な役割を果たしていることを伝えるとともに、さいたま市内にはパナマ運河より遥か以前に開通した閘門式の運河があること等も紹介しました。



また、安全運航の確保については、船員の仕事内容、東京湾といった幅狭海域での海の上のルールや海賊事案への諸対策等を説明しました。少々難解な内容ではありましたが、児童たちは興味深く耳を傾けており、気になったことについて多くの質問を受けました。日々の生活や産業活動は、日本人だけでなく、外国人にも支えられており、世界が平和であることで海運が成立していることを紹介しました。

最後に海運の GHG 排出量削減対策について、実際の取組例とともに説明しました。環境への意識が世界的に高まる中で、海運が持続的に発展していくためには今後環境対策への取り組みが益々重要になってくることを強調しました。また、「松風丸」をネットで検索する等、現実には運航されていることを知ってもらいました。

どのように海運の脱炭素を進めるか

将来必要となる、新たな船の開発を進めています。

ウィンドチャレンジャープロジェクト

自動カイトシステム Sea Wing

ほ 船に帆を付けて、風のカも得て進む船 (→実際に運航中！「松風丸で検索！」) しょうぶまる

たこ 船に帆を付け、風のカも得て進む船

JSA 日本船舶振興協会 THE JAPANESE SHIPBUILDING ASSOCIATION

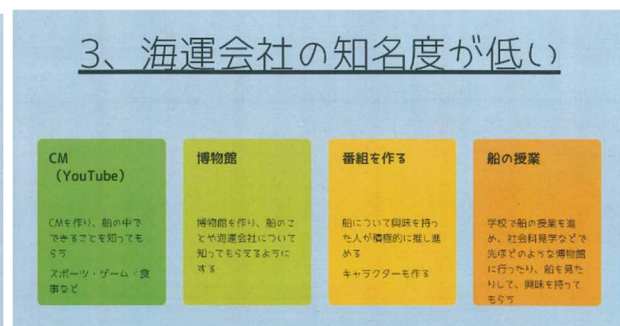
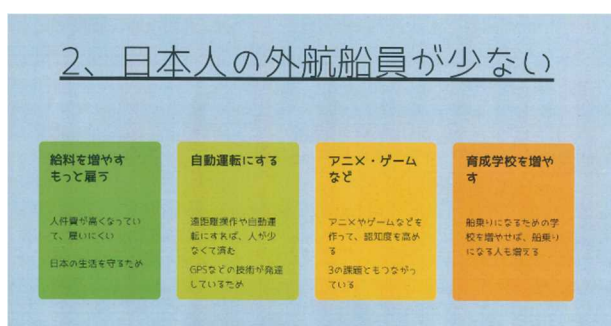
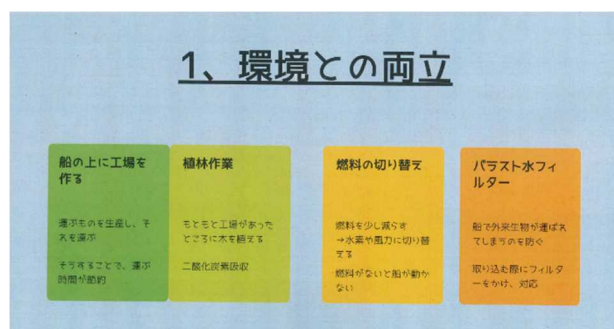
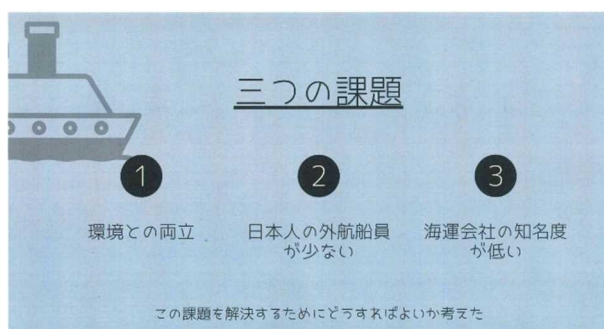
児童からは、「1 隻あたりの船の建造費用は幾らくらいになるのか？」「浦賀水道といった航路が海上で分かるような目印はあるのか？」「船の断面図の赤い部分（バラスト水）は何のためにあるのか？」等、20 以上の質問が挙がり関心の高さが窺えました。

担当の先生からも「最後まで集中して聞いており、児童の知的好奇心をくすぐる内容で、大変意義のある時間となった」とのコメントがありました。

<1月31日(火)>

出前授業を含めた海運に係る一連の学習のまとめとして、先生から出された海運が抱える3つの課題(①環境との両立)(②日本人外航船員の少なさ)(③海運会社の知名度の低さ)に対して児童がグループディスカッションを通じて解決策を提案する時間が設けられました。

当協会は、児童から出た提案に対し、夫々講評を行いました。終了後、児童からは「海運の課題改善が私たちの暮らしに直結することが理解できた」「日本の工業生産を支えるためには海運は欠かせない存在だ」「自分たちの考えた解決策が実際に行われているのを知れて嬉しかった」といった声が聞かれました。



当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう引き続き活動を展開してまいります。

以上